

## 第19回 標準委員会 発電炉専門部会議事録

1. 日時 2005年9月21日(水) 13:30~18:15
2. 場所 原子力安全基盤機構 第13A、13B会議室
3. 出席者(敬称略)  
(出席委員) 平野(光)〈部会長〉、百々(幹事)、安部、木下、榊原、佐藤(崇)、関村、西村、本間、益子、松岡、村松、守屋(14名)  
(代理出席委員) 田南(白柳代理)、成宮(千種代理)、中村(平野(雅))、遠山(山内代理)(4名)  
(欠席委員) 三島、大橋、片岡、佐藤(均)、高橋、平井(6名)  
(常時参加者) 笠井、古川(2名)  
(発言希望者) 蛭沢、住田、山越、杉山、木原、安念、山内、福島、森田、溝上(10名)  
(傍聴者)(0名)  
(事務局) 村上、厚
4. 配付資料  
PTC19-1 第18回 発電炉専門部会議事録(案)  
PTC19-2 人事について  
PTC19-3 発電炉専門部書面投票結果について  
PTC19-4 新分科会の設置について(統計的安全評価手法)  
PTC19-5-1 原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的安全評価実施基準(レベル1編)(案)  
PTC19-5-2 原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的安全評価実施基準(レベル2編)(案)  
PTC19-5-3 研究炉専門部会 廃止措置分科会(R3SC) 廃止措置標準(案)  
PTC19-6 電気協会ISO-TC85 SC6への協力依頼  
PTC19-7 その他
5. 議事内容  
議事に先立ち、事務局より、委員23名中、代理委員を含めて18名が出席しており、決議に必要な定足数(16名以上)を満足している旨報告された。
  - (1) 幹事の紹介  
白柳幹事は、都合により幹事を退任したことから、部会長が百々委員を幹事に指名したことが部会長より紹介があった。
  - (2) 前回議事録の確認  
前回議事録について承認された(PTC19-1)。
  - (3) 人事関係(PTC19-2)  
事務局より、今回は委員の交代なし。ただし、9月26日の書面投票終了後に委員の退任の打診があったので新たに委員の推薦が必要である旨紹介があった。  
今回より笠井氏(原技協)が新たに常時参加者になることが審議され承認された。  
また、事務局より委員会委員データベースの更新のための協力依頼がされ承認された。
  - (4) 発電炉専門部書面投票状況等の報告(PTC19-3)  
事務局より「BWR核熱水力安定性評価基準(案)」の意見がなく公衆審査が終了したことが報告された。  
事務局より「原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的安全評価実施基準(案)」(レベル1PSA)の書面投票が終了し可決されたことが報告された。  
事務局より、「原子力発電所の定期安全レビュー実施基準(案)」及び「原子力発電所の高経年化対策実施基準(案)」が9月26日までの予定で書面投票中である旨紹介があった。
  - (5) 新分科会の設立について(PTC19-4)  
前回は引き続き「統計的安全評価手法」の標準作成ための新分科会設立について提案があった。前回の委員会での審議では、現時点で研究段階であり実炉に使用されるような状況ではないのではないかと懸念があり標準化は時期尚早であるとの意見が提出されたことであった。  
今回、欧米ではすでに実炉への適用があること、国内では民間レベルですでに実炉への適用を想定した開発が進んでおり標準化するニーズが産業界レベルで高まっていることの紹介があった。  
このような背景を元に審議した結果、新分科会の設立について決議の提案があり設立が承認された。

(6) レベル1 PSA標準 (PTC19-5-1)

「原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的安全評価実施基準 (案)」 (レベル1PSA) の書面投票の結果反対がなく可決したがコメント及び意見が提出された。  
分科会主査より、提出されたコメント及び意見が紹介された。  
すべてのコメント及び意見は、技術的な内容の変更を伴うような内容ではなく編集上の改訂で対応可能との分科会提案について審議され承認された。  
今後、分科会にて標準案の編集上の訂正を実施した上で専門部会委員の確認後、標準委員会の書面投票に移行することが了承された。  
9月27日に予定されている標準委員会には分科会から標準委員会の書面投票を行うことで説明を行うことが了承された。

尚、現在、書面投票中の「原子力発電所の定期安全レビュー実施基準 (案)」及び「原子力発電所の高経年化対策実施基準 (案)」については、標準化のニーズが高いため書面投票の結果、反対票がなく意見・コメントが技術的な内容の変更を伴わない状況であればレベル1PSAと同様に標準委員会の書面投票へと移行することが提案された。審議の結果、提案は、承認された。なお、意見・コメントが技術的な内容の変更を伴わないことの確認は規約に従って部会長が実施することが確認された。

(7) レベル2PSA標準案の審議 (PTC19-5-2)

「原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的安全評価実施基準 (レベル2編) (案)」についてレベル2PSA作業会から報告がされた。  
標準案は、レベル1PSAとの整合性を考慮し日本原子力学会の標準作成要領並びにJIS Z8301「規格票の様式及び作成方式」に従って作成された旨が紹介され現時点での状況の説明があった。主な議論は、以下の通り。  
・ デブリとコンクリートとの反応について解説に記載されているが、引用した内容と記載に齟齬がある懸念があるので比較検討し必要があれば改訂すること。  
・ 標準案制定の方針の3点が述べられているが日本原子力学会の標準作成要領に準拠したものかレベル1PSAの標準を参照し整合をとりながら標準案を定めるための考え方を述べたものか確認してもらいたい。  
・ 用語定義とその後の表題の付け方には整合を持たせてもらいたい。  
標準案について意見があれば10月14日までに分科会幹事及び事務局に送付すること。

(8) 標準「原子力施設の廃止措置の計画と実施 (仮称)」中間報告 (PTC19-5-3-1)

廃止措置分科会より現在策定中標準 (案) の規定の部分についての説明があった。  
標準案の内容へのコメントをするために委員には別途参考及び解説を別途送付することとなった。  
本標準 (案) に意見・コメントがある場合は10月7日までに分科会幹事及び事務局に送付すること。

(9) ISO TC85 SC6新規標準の提案 (PTC19-6)

事務局よりISO TC85 SC6で地震PSA関係の標準を新たに策定する提案の検討依頼が電気協会から来た。正式には、標準委員会が原子力学会の窓口となるのでこれへの協力を依頼する。

(10) その他 (PTC19-7)

事務局より事務業務効率化などの説明があった。効率化に当たっては、委員会の理解が得られた。具体的な実施方法などについては別途標準委員会などでの審議等を通じて実施に移していくことなどが説明され了解された。

6. 次回開催予定

第20回専門部会については未定。

以上